

YUKI ONUMA

大 沼 由 紀

DUQUELA を纏 (まと) って 黒い倅せを生きる

『DUQUELA』(ドゥケラ) というフラメンコの宝石言葉があります。
日本語で訳せば『苦』でしょうか。

(ジブシーという英語を使うと、差別だなんだと騒がれたりしますが、これをスペイン語に訳してヒターノ、ヒターナというと、フラメンコという彼らの文化への敬意が入り、尊意に値していきます。なので、「ジブシー」と言わないと一般的に通じづらいこの名称を、あえてここではスペイン語をカタカナにした「ヒターノ」と使います。)

フラメンコのカンテには、スペインのヒターノ世界に存在する言葉、カロが含まれています。(スペイン語で caló, 後ろのロの字にアクセントで発音) 言葉の宝石が所々に散りばめられているフラメンコの歌、カンテ。このカンテに深いこだわりを持ち、フラメンコの洗礼を受けたようなこの DUQUELA という言葉を纏 (まと) って生きる女性、フラメンコを踊る人、大沼由紀。

苦という字は草かんむりに固いの意を足して、固い草を表し、苦い草、苦い、苦しい、ということからできたのだそうです。私たち日本人には、『苦』はどこか否定的なニュアンスが感じられますが、フラメンコのヒターノに言わせれば、「フラメンコは dolor (痛み、苦しみ) だ!」と誇り高くポジティブに胸を叩きます。彼女の現在運営するフラメンコスタジオの名も「BREÑA」。荒地。彼女と歩いていると、人間が歩きやすいようにアスファルトを敷いて作った道があるにもかかわらず、「ちょっとこちを歩きたい」と、その隣の草むらをかき分けて荒地を歩き出したりします。自分が踊るにあたっては、自分の心が正直に反応する限られたカンテを必要とし、何をしても彼女はその真髄、強いて書けば神髄 (精神と髄行)、ここを常に求めているのではないかと、私なりに彼女を分析しています。いくら上手に真似しても、その「しんずい」を所有していなければダメ。自分の全てをそれに注ぎ、他の何を失っても構わないからフラメンコの神髄を自分のものにしたい……。移植したいというよりは、この手で作り上げたい、という信念。生きてる限り彼女の人生にはずっとそれがあるのかもしれない。この半端ないエネルギーが、どこか一味違って見える彼女を作り出し、皆を魅了させるのかと思うのです。DUQUELA のオーラを漂わせる存在。。。。

話が変わりますが、彼女の筆跡を見たことがありますか？
私の人生の中でこんなに印象に残った筆跡に出会ったこと、他にあったかな?と思います。利き手を怪我して反対の手でサインしたのかな?と思ってしまったほど。でもそれは私の浅はかな間違いでした。まだメールなどが無かった 20 数年前のことです。私が最初に見たのは彼女の名前のサインで、字数の少ない4文字だけでしたが、字数が増えていくと気づきました。渡されるメモ書きも、受けとった長文の手紙も、彼女の書く字の整列は完全に文字の舞踊でした。リラックスして柔らかな宙を舞うような筆跡。彼女が書く文字の集団までもが芸術なのです。美しい模様のような。鉛筆や筆の和の世界がお似合いの、天女の舞のような流れる文字の集まり。柔らかく温かい筆圧。しかも美味しそう。スペインのお菓子やパンの中によく入ってくるかぼちゃのジャムがあります。透明な細い繊維質の、子供の金髪に毛に似ていることから『天使の髪』の名を持つ『カページョ・デ・アンヘル』というジャムですが、その繊維を使って模様にしたような、美味しそうで優しい文字です。彼女が字を書けばそこにもアートの世界あり!です。と同時に、おかたいニッポン社会の中で、常にこの筆跡でいるという度胸にも尊敬。

そんな彼女の文字は、フラメンコのカンテのレトラ (歌詞) とも呼応しているようです。そこにはリズムがあり、声のビブレーションがあり、地声の心の叫びが空間を踊るという世界。植物が地に根を生やしたまま、地上で風に吹かれて揺れる感じ。自分の踊りが心から舞おうとするそのカンテ。

彼女を心のままに躍らせたカンテと言え、2004.05 年の大沼由紀舞踊公演『Espontánea』のために来日した、ディエゴ・デ・ロス・サントス“ルビチ”がいます。「また日本に行って Yuki に歌うぞ!」と言っていた彼は、2007 年に突然この世を去り、そしてこの Espontánea シリーズは封印されました。しかし月日は巡り、つい数ヶ月前にディエゴの甥のトマス・ルビチのカンテを聞いた時に、「再び Espontánea がやって来た」と彼女は言います。それは、「その時に聞こえたことを踊る」という彼女の踊りそのもの。やって来たものは受け入れる。そして、それを連れていく。

彼女の大学時代の専攻は、芸術学部音楽科声楽コース。横隔膜を張らせて、小さな彼女の身体が、まるで動物が威嚇するときのように自分を膨れ上がらせて、私に呼吸法を説明してくれた昔の彼女を、今ふと思い出します。大学卒業後は、テント芝居や暗黒舞踊など、いわゆるアングラの世界に身を置き、その後ジャズを勉強し、ピアニストとして生計を立てる日々。そんな時にフラメンコを見て、「なんだこのリズムは?!私は音楽のプロなのに、このリズムが見えない!」と焦ったそうです。当時 27 歳。そのままフラメンコ教室の門を叩き、佐藤佑子先生のスタジオカスコーロに入門。そこにはエンリケ坂井先生のカンテもありました。踊りはあってもカンテは無いに等しかった時代に、当たり前にかンテがあったことが、自分のフラメンコ人生に大きな影響を与えたときよく話してくれます。

本場フラメンコの地へ渡ったのが、31 歳の時。踊りに取り組むにはかなり遅いスタート。その遅れを取り戻そうとするかのごとく、マドリッド、セビージャでは稽古三昧。しかしその後のヘレスでは、生活の中でカンテを浴び、ブレリアに魅了され、そこで初めて、アフィシオナーダ (ファン) になっていく。自分がフラメンコを聴くことを欲している人に。

3 年近くのスペイン留学で貯金が尽きて帰国。しばらくは、友人の家を転々としながらピアノの仕事で急場をしのぎ、そうこうするうちに、「ヘレスのブレリアを教えて欲しい!」と集まって来た人達を母体に教室がスタート。数年後には中野にスタジオを持ちました。このスタジオ「プレーニャ」(前記) は名のごとく、野生の雑草の強さを持っています。踏まれてもそのまま枯れずに生き続ける強さがあります。

それから何年も経ちました。

フラメンコに100%自分の人生を捧げた代わりに、フラメンコの神が彼女に、黒、という色をくれました。

今回の衣裳は黒の中でもスペイン語で特殊な言い方を持つ、AZABACHE（アサバチェ）という色です。

漆黒。DUQUELAにお似合いの。

由紀さんの大好きな本、フアン・ラモン・ヒメネス（ノーベル文学賞受賞作家のアンダルシア人）の書いた、

『ブラテロとぼく』のロバ、ブラテロの目の色です。

—それは漆黒色で輝く鏡のような目で、黒いガラスでできた小さなカブトムシのような色—（本文より）

その作者の残した言葉の中の一つに、

「喜びと悲しみは一卵性双生児」（直訳）というのがあります。

彼女を見ているとこの言葉が蘇ります。

今回のこの衣裳は彼女自身のデザインです。

喪服のようにも見えますが、力強く華やかさも、至福な幸せにも見えます。

フラメンコと言えば水玉ですが、

単体であれば単なる「まる」が複数になると「水玉」と化すように、

漆黒を着た彼女は、自分を一つのまる、カンテ、ギター、パルマをそれぞれのまるとし、

別次元の水玉をステージで描くでしょう。

シャボン玉のように、大きさを変えたり消えたり生まれたりしながら、その場で作る水玉フラメンコ。

彼女のステージのタイトルは『Espontánea』。自然発生的な、、、の意。まさにそれです。

「もー！いろいろ勝手なこと言わないでよー！」と、

遠い地球の反対側から彼女の叫びが聞こえてきますが、

踊り手は文字で自分を正当化するのではなく、踊ってみせる（見せる、魅せる、観せる）、

そしてその踊りで相手に何かを感じてもらおうのだとする彼女が、

ここでべらべらと勝手に彼女を語っていることを好むとも思えませんが、

小さな体でビクビクなハートを持っている私の親友、大沼由紀さん！への、

これは愛のメッセージです。一回限りの。

ヘレスを代表するパルメロ、ホセ・ルビチとアリ・デ・ラ・トタが奏でる珠玉のコンパス、

一切の飾りを必要とせず、真実を引き出すドミンゴ・ルビチのギター、

コマーシャルから一線を画し、ファミリアで培われた本物のフラメンコを歌うトマス・ルビチ、

そこに生まれるすべてを受け止めて、全身全霊捧げて心から舞う大沼由紀、

この5人が引き起こす自然発生的フラメンコを見に、皆様ぜひ会場にお出かけください。

きっと何か人生の奮起するきっかけになることでしょう。お勤めします。本気で。

セビージャより、下山まゆみ。



大沼由紀舞踊公演

"Espontánea IV - フラメンコ、自然発生的な -"

日時：2016年11月2日(水)19:00 開場 19:30 開演

2016年11月3日(木・祝) 16:30 開場 17:00 開演

会場：座・高円寺2 (JR 高円寺駅徒歩3分)

料金：8,500円 全席指定 (当日9,000円)

※チケット申込み受付中！

お申込み・問い合わせ

espontanea@y-mobile.ne.jp

070-5464-1971 / Espontánea 公演事務局



Foto: Mayumi Shimoyama

eStudio Breña

(エストゥディオ・ブレーニャ)

東京都中野区中野 5-32-6

城西ビル B1

TEL: 03-3319-2280

URL: <http://www.yuki-onuma.com>

Facebook: <https://www.facebook.com/brena.yuki>